



認知症家族教室



～5月21日に認知症家族教室を開催しました～

はじめに、当院認知症サポーター医、洪より「当院認知症治療病棟入院中のご家族を対象に、今まで模索しながら行ってきた家族教室も29回目となり今日は京都府宇治市の病院から看護師2名の方が来ています。」と見学者の紹介をさせて頂きました。

今回の家族教室は、「認知症リハビリについて」をテーマに前半は、認知症サポート医である井上から『認知症について』お話しをさせて頂き、「早期受診」の必要性を伝えました。

後半は、作業療法士の千葉より、認知症リハビリと非薬物療法について、「認知症リハビリとは、役割やできる作業を長く続けることだ。」とご理解ください。」と伝え、続けて、認知症になると、今まであたり前にできていたこと(生活行為)が徐々にできなくなることがご本人、ご家族の苦しみとなり、症状の悪化や認知症の進行を招いてしまうということを説明させて頂きました。また、認知症リハビリには「認知」「刺激」「行動」「感情」に焦点を当てた作業活動があり、認知症の進行具合や個人の好み、能力に応じた適切な活動を提供し、できるだけその人らしい生活を送っていただけるよう支援していることと、退院後も無理なく作業を続けられるように、ご家族や在宅サービスとも連携していることを伝えさせて頂きました。

今回の家族教室には、初めて他病院からの見学者が来られ、医療法人鴻池会で行っている認知症家族教室の取り組みを知って頂くことができました。私たちも他の医療機関の良いところを取り入れる姿勢を学び、専門職間での情報交換を大切にしたいと考えています。